

2008年 秋季大会 領域9 インフォーマルミーティング議題

開催日時 2008年9月21日 17時30分～ 於 岩手大学(XB会場)
 領域代表 梶原 浩(2007.10-2008.9)
 領域副代表 上羽牧夫(2007.10-2008.9, 領域代表 2008.10-2009.9)
 世話人 横山悦郎, 赤木和人, 中辻 寛(2007.11-2008.10)
 奥山 弘, 小野寛太, 上野 聡(2008.5-2009.4)

議題

1. 報告

- (1) 今大会のプログラム編成
- (2) 2009年 年次大会(2009/3/27-30)までのスケジュール
- (3) 領域代表・領域副代表 交代 (2008.10-2009.9)
- (4) 物性領域においてシンポジウム、招待・企画講演を提案する上での注意事項について
- (5) 若手奨励賞の人数の見直しについて

2. 協議事項

- (1) 次期領域副代表・次々期領域代表の推薦・承認
- (2) 次大会 (2009年 年次大会) におけるシンポジウム・招待講演
- (3) キーワード・合同セッションについて

3. その他・お知らせ

【報告資料】

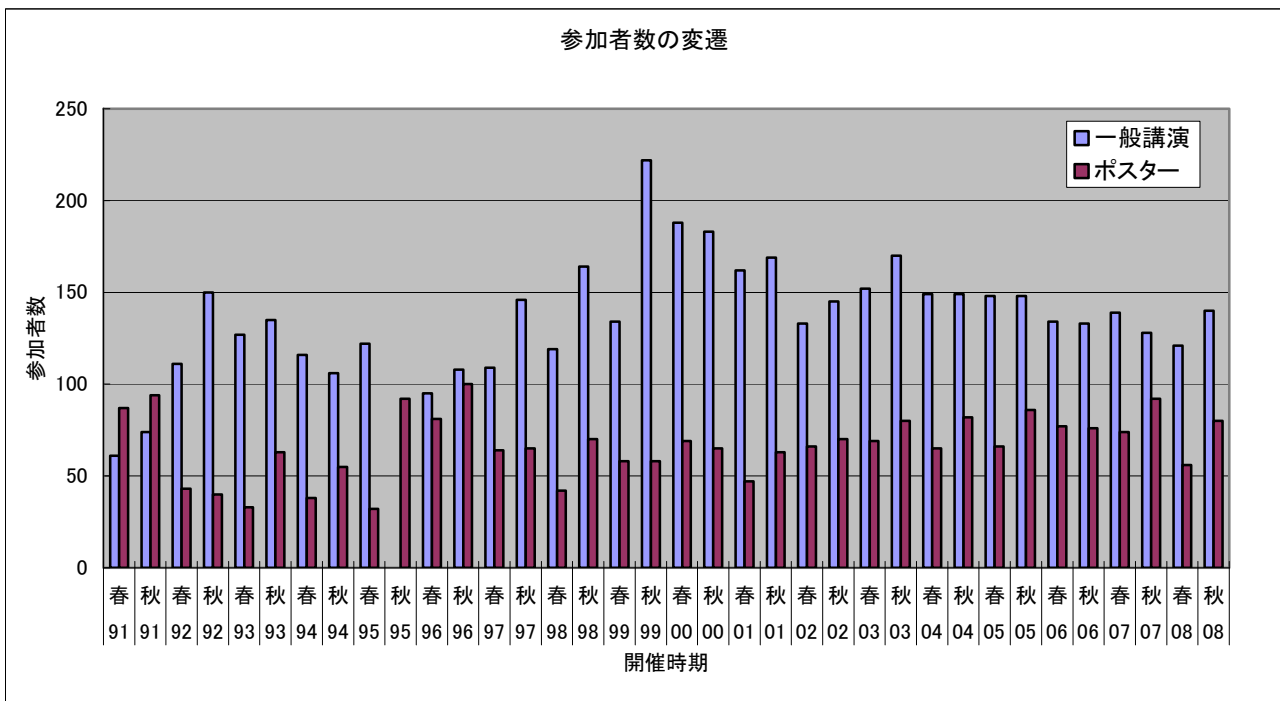
(1) 今大会のプログラム編成

発表件数 (2008春 (近畿) / 2007秋 (北海道))

一般総数: 220件 (+43/+0)

一般口頭発表: 140件 (+19/+12)

ポスター発表: 80件 (+24/-12)



合同セッション (3件)

領域3 (表面・界面磁性) 発表件数 14件 (うち領域9が10件)

領域7 (機動的) (ナノチューブ・ナノワイヤ) 発表件数 26件 (同24件)

領域7,10 (機動的) (グラフェン・グラファイトの形成と評価 II) 発表件数 8件 (同5件)

(領域10 (水素ダイナミクス) 発表なし)

シンポジウム・合同シンポジウム (0+2 件)

- ・「Physics and applications of hydrogen absorption on Pd surfaces and nano particles」(領域 10 合同, 20aXB)
- ・「ソフトコンデンスドマターの結晶成長」(領域 12 合同, 21pXB)

招待講演・合同招待講演 (2+1 件)

- ・高岡毅 (東北大 多元研)
「超音速希ガス原子衝突を利用した表面分子摩擦の研究」 (21aXB)
- ・小倉正平 (東大 生研)
「金属表面における Au の拡散とフラクタル成長」 (22aXB)
- ・白澤徹郎 (東大 物性研)
「低速電子線照射による Si(001)表面の構造変化」(領域 4 合同) (20pXB)

英語セッション希望申し込み

3 件 (うちポスター講演 2 件)

会場	20(土)		21(日)		22(月)		23(火)	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
XA	表面界面磁性 (領域 3 合同)	結晶成長	ナノチューブ・ ナノワイヤ(領域 7 合同)	ナノチューブ・ ナノワイヤ(領域 7 合同)	表面界面電 子物性		表面界面電 子物性	表面界面電 子物性
XB	シンポ(Pd)(領 域 10 合同)	表面界面ダイ ナミクス	表面界面ダイナ ミクス・量子物性	シンポ(ソフトコ ンデンスド)(領 域 12 合同)	微粒子・表面 構造		表面界面構 造	表面界面構 造
その他			グラフェン形 評 II(TA)(領域 7,10 合同)			ポスター (PSA, PSB)		

(2) 次大会 (年次大会) までのスケジュール

開催地: 立教学院池袋キャンパス (東京)

開催期間: 2009 年 3 月 27 日 (金) - 30 日 (月)

- 招待講演, 企画講演, シンポジウム企画募集掲載: 会誌 10 月号
- 講演募集要項掲載: 会誌 11 月号
- 招待講演, 企画講演, シンポジウム企画申込期間 (Web): 10 月 8 日 (水) ~ 11 月 14 日 (金)
(※物性領域公募締切は 10 月 31 日)
- インフォーマルミーティング申込期間 (Web): 10 月 8 日 (水) ~ 11 月 28 日 (金)
- 素核宇領域・物性領域プログラム小委員会 / 領域委員会: 11 月 25 日 (火)
- 一般講演 申込期間 郵送: 11 月 7 日 (金) ~ 11 月 21 日 (金)
Web: 11 月 7 日 (金) ~ 11 月 30 日 (日)
- プログラム編集会議: 12 月 12 日 (金)
- プログラム初校校正: 1 月初旬
- プログラム暫定版 Web 公開: 12 月下旬
- 講演概要集原稿締切 (郵送, pdf 同時): 1 月 23 日 (金)
- 座長依頼発送: 12 月下旬
- プログラム掲載: 会誌 3 月増刊号

(3) 領域代表・領域副代表の交代

2008年10月～2009年9月

領域代表 上羽牧夫 (名古屋大学)

領域副代表 小森文夫 (東京大学)

(参考)

2005.10-2006.9 領域代表: 大門寛 (表面界面分野)

2005.10-2006.9 領域副代表 / 2006.10-2007.9 領域代表: 馬越健次 (表面界面分野)

2006.10-2007.9 領域副代表 / 2007.10-2008.9 領域代表: 栢原浩 (九州大学, 表面界面分野)

2007.10-2008.9 領域副代表 / 2008.10-2009.9 領域代表: 上羽牧夫 (名古屋大学, 結晶成長分野)

2008.10-2009.9 領域副代表 / 2009.10-2010.9 領域代表: 小森文夫 (東京大学, 表面界面分野)

(4) 物性領域においてシンポジウム、招待・企画講演を提案する上での注意事項について
添付資料参照

(5) 若手奨励賞の人数の見直しについて

現在最大51名であるが、多すぎるのではないかという意見がある。

3年後に見直すとのことなので、各領域の意見を聞いてほしい。

添付資料参照

【協議事項】

(1) 次々期世話人 (2009年5月～2010年4月) の推薦・承認

結晶成長分科

()

表面・界面分科

木口 学 (北海道大学)

奥田 太一 (東京大学)

(参考) 次期世話人 (2008年11月～2009年10月)

結晶成長分科

佐崎 元 (北海道大学)

表面・界面分科

坂本 一之 (千葉大学)

ディニョ ウィルソン (大阪大学)

(2) 次大会 (2009年年次大会) における招待講演・シンポジウム

招待講演

提案者: 松田 巖 (東京大学)

登壇者: 深谷 有喜 (原研先端基礎研)

テーマ: 反射高速陽電子回折による表面相転移の研究

シンポジウム

提案者: 小野寛太 (高エネ研)

主題: 原子レベルのスピン検出手法 (領域3 合同)

*** 留意事項 ***

1. 推薦に際しての条件、企画上の注意事項についての添付資料
「物性領域においてシンポジウム、招待・企画講演を提案する上での注意事項」
の遵守をお願い申し上げます。
2. 招待講演の場合、推薦理由のカテゴリー (推薦に値する成果の形式: (1)研究報告, (2)プロジェクト研究終了, (3)博士論文, (4)論文発表, (5)外国招待研究者 など) と, その内容を簡潔にお知らせください。
3. インフォーマルミーティング当日には, 招待講演提案書と招待講演に関する論文リストを合わせて OHP で紹介していただくこととなりますので, 資料をご用意ください。
4. シンポジウムの場合も, 主題と内容説明が必要になります。インフォーマルミーティングにおいて議論されていない提案については, 領域からの推薦順位等で不利になることがあります。また, 代表が提案者に項目 2.と同じ書類等の提出を求めることがあります。
5. いずれの場合も実質的な最終決定は年次大会後のプログラム委員会においてなされます。何らかの不備等がある場合, このとき不採択になる可能性もありますがご了承ください。
6. 終了後, 提案者の方は報告書を書いていただく必要があります。

最近のシンポジウム、特別講演・招待講演を資料 1,2 に示します。

(3) キーワード・合同セッションについて

2009 年春の年次大会のキーワード (キーワードの次のカッコ内の数字は 2008 年秋の秋季大会 (オーラル/ポスター)の申込数)

第一キーワード (研究分野)	第二キーワード (物質等)	第三キーワード (手段等)
(1) 結晶成長(12/7)	(21) 金属	(31) 走査プローブ顕微鏡法
(2) 表面界面電子物性(36/15)	(22) 半導体	(32) 電子顕微鏡法
(3) 表面界面構造(30/21)	(23) 無機化合物	(33) 分光
(4) 表面界面ダイナミクス(17/8)	(24) 有機化合物	(34) 回折
(5) 表面ナノ構造量子物性(5/6)	(25) 高分子・バイオマテリアル・コロイド	(35) その場観察
(6) 微粒子・クラスタ(6/3)	(26) その他	(36) 技術開発
(71-74) 新トピックス		(37) 理論・シミュレーション
(71) 表面磁性(10/3)		(38) 結晶評価
(72) 表面局所光学現象(0/2)		(39) 核生成
(73) ナノチューブ・ナノワイヤ(23/12)		(40) その他
(74) 水素ダイナミクス(1/1)		

合同セッションについての現状

口頭発表で「水素ダイナミクス」又は「表面磁性」をキーワードで選んだ場合は自動的にそれぞれ領域 10、領域 3 との合同セッションにする。講演募集要項での記述は以下のとおり。

- 領域 3 (磁性、磁気共鳴分野) : 領域 9 (表面・界面分野)
領域 3 (磁性、磁気共鳴分野) と領域 9 (表面・界面分野) は表面磁性に関連する合同セッションを設ける。合同セッションの講演希望者は、領域 3 においてはキーワード「表面・界面磁性」を選択し、要旨欄に「領域 3 & 9 合同」と記入すること。領域 9 においてはキーワード「表面磁性」を選択すること。
- 領域 9 (表面・界面分野) : 領域 10 (格子欠陥分野)
領域 9 (表面・界面分野) と領域 10 (格子欠陥・ナノ構造分野) は水素に関連する合同セッションを設ける。合同セッションの講演希望者は、領域 9 においてはキーワード「水素ダイナミクス」を選択すること。領域 10 においてはキーワード「水素」を選択し、要旨欄に「領域 9 & 10 合同」と記入すること。
- 領域 7 (分子性固体・有機導体分野) : 領域 9 (表面・界面、結晶成長分野)
発表者・聴衆の便利のため、関連性が強いと思われる講演を組み合わせ、領域 7 と領域 9 の間で機動的に合同セッションを組むことがあります。

機動的合同セッションについて (今回初めて設定)

- ・プログラム編成時に、内容的に合同セッションを組む方が良いと判断される講演数が一定数を超えた場合、合同セッションを設定する。
- ・そのテーマに関するキーワードを、双方の領域で次回募集要項に掲載し、定常的な合同セッションとして立ち上げる。
- ・キーワードの使用頻度が減少したら、削除する。

今回開いた機動的合同セッション:

領域 7 (ナノチューブ・ナノワイヤ) 発表件数 26 件 (うち領域 9 : 24 件)

領域 4, 7, 10 (グラフェン・グラファイトの形成と評価) 発表件数 8 件 (同 5 件)

合同セッションの今後

次回年次大会（立教学院）の講演募集要項について

- ・機動的に設けた合同セッション(ナノチューブ・ナノワイヤ)の定常化は領域7との話し合いの結果、見送ることになった。

今後、定常的に合同セッションを行う場合の講演申込時の設定については、キーワード(ナノチューブ・ナノワイヤ)を選択の上、合同セッション希望の有無を選択する。

- ・領域10との合同セッションに関して修正

→「発表者・聴衆の便利のため、関連性が強いと思われる講演を組み合わせ、領域10と領域9の間で機動的に合同セッションを組むことがあります。」

領域10でも「水素」をキーワードとする講演が少ない。一方、「ナノ構造」をキーワードとして領域9との合同セッションを希望する講演が比較的多いため、今回「水素」に限定することを取りやめた。

前回会議における提案

- ・領域5との合同セッション（光電子分光）→次々回以降
- ・合同セッション（表面磁性）の受け持ち→領域3と9で交互に受け持つ
- ・合同セッションの場所の問題→プログラム編成の際に考慮する。今回は領域9が受け持ったので問題なかった。

【その他】

資料 1. 最近企画されたシンポジウム

2008 年秋

- ・「Physics and applications of hydrogen absorption on Pd surfaces and nano particles」(領域 9,10)
- ・「ソフトコンデンスドマターの結晶成長」(領域 9,12)

2008 年春

- ・「実在表面・機能表面の物理」
- ・「反転対称性の破れた表面におけるスピンと軌道」(領域 3,9)

2007 年秋

- ・「精密に 1nm 構造に実現可能な物質機能の科学」(領域 7,9)
- ・「探針型プローブ表面間相互作用の新展開」

2007 年春

- ・「ナノスコピック系の摩擦の物理：摩擦の素過程と制御」(領域 9, 10)
- ・「ナノ微粒子の構造及び電子状態の制御とその機能性の展開」(領域 10, 9)
- ・「Atom Dynamics and Formation of Nano-objects by Electronic Excitations」(領域 9, 5)
- ・「最近の低温実験技術の進歩と新しい物理の展開」(領域 6, 4, 8, 9, 3)

2006 年秋

- ・「The forefront of time- and space-resolved spectroscopies using high-brightness synchrotron radiation」(領域 5, 9)
- ・「単一分子伝導研究の現状と課題」(領域 7, 9)

2006 年春

- ・「制限された場における水分子の科学」

2005 年秋

- ・「バイオミネラリゼーション ～ 生物による鉱物形成 ～」
- ・「原子間力顕微鏡法の新展開」
- ・「ナノスケールで発現する金属磁性」(領域 3, 9)

2005 年春

- ・「結晶成長過程における有機分子の多彩な役割」
- ・「Metallic nano-structure on silicon surface」
- ・「固体における水素の科学の新展開」

2004 年秋

- ・「ヘテロ界面における新しい電子状態と制御」(領域 9, 7)
- ・「表面局所光学現象の観察と応用」(領域 9, 5)
- ・「高密度プラズマ放射光源の高性能化と関連物理」(領域 2, 1, 9)
- ・「酸化物・分子性導体電界効果トランジスタ開発の現状と展望」(領域 7, 8, 9)

2004 年春

- ・「バイオクリスタリゼーション，構造ゲノム科学，バイオインフォマティクスーその 3 重点に出現する新 phase の発見」(領域 9, 領域 12)
- ・「有機分子と表面の相互作用，：単一分子から薄膜までのサイエンス」(領域 9, 領域 7, 領域 12)

2003 年秋

- ・「スピンイメージングの最新の展開」(領域 3, 領域 8, 領域 9)
- ・「ナノコンタクト・ナノワイヤの伝導」(領域 9)
- ・「半導体表面の基底状態超構造と外場応答-Si(001)と Ge(001)を例に」(領域 9)

2003 年春

- ・「過冷却液体からの核生成・結晶成長」(領域 9, 領域 12)
- ・「表面・界面ナノスピントロニクスデザインと創製」(領域 9, 領域 4, 領域 3)
- ・「表面多光子分光法の可能性を探る」(領域 5, 領域 9)

2002 年秋

- ・「表面光電子分光法の技術革新：表面量子準位からナノ構造まで」(領域 9)
- ・「電子励起による表面ナノテクノロジーの展開」(領域 9)

2002 年春

- ・「電子回折の新展開」(領域 9,10)
- ・「水素と固体表面」(領域 9)
- ・「高輝度放射光を利用した表面，ナノ領域磁性研究」(領域 3, 9)

2001 年秋

- ・「単一分子－表面複合系の科学」(領域 9)

2001 年春

- ・ Si 系表面における相転移(領域 9)
- ・ ナノチューブ科学の最近の進展: 新物質合成から応用まで (領域 7, 9)

資料 2. 最近企画された特別講演・招待講演

2008 年秋 (岩手大学)

- ・白澤徹郎 (東大物性研)
「低速電子線照射による Si(001)表面の構造変化」(領域 9,4)
- ・高岡毅 (東北大多元研)
「超音速希ガス原子衝突を利用した表面分子摩擦の研究」
- ・小倉正平 (東大生研)
「金属表面における Au の拡散とフラクタル成長」

2008 年春 (近畿大学)

- ・佐藤正英 (金沢大学総合メディアセンター)
「表面拡散場中でのステップ列の形態不安定性」

2007 年秋 (北海道大学)

- ・荒船竜一(東京大学)
「表面振動励起非弾性光電子放出」
- ・木村健二(京都大学)
「ラザフォード後方散乱法による Si/SiO₂ 界面の酸化過程の解明」

2007 年春

- ・新井豊子 (筑波大学)
「電圧印加非接触原子間力分光法による 2 物体間結合力の共鳴的増大」
- ・岡本裕己 (分子科学研究所)
「金属ナノ粒子系のプラズモンダイナミクス: 近接場イメージングによる研究」

2006 年秋

- ・Sadwski Jerzy. T. (東北大金研)
「Real-time low-energy electron microscopy investigation of the nucleation and growth of thin organic films」

- ・Davis, Lawrence Berkeley (Univ. California)
「X-ray photoelectron spectroscopy and diffraction in the hard x-ray regime: an overview」(領域 5 と合同)

- ・立花明知 (京大院工)
「Rigged QED 理論による化学結合の可視化」(領域 10, 11 と合同)
- ・佐崎元 (東北大)
「タンパク質の結晶成長素過程の分子レベルその場観察: 巨大分子を使って表面素過程を観る」

2006 年春

- ・鈴木博之 (内閣府総合科学技術会議)
「第 3 期科学技術基本計画について (ナノテクノロジー・材料分野)」
- ・川越毅 (大阪教育大)
「スピン偏極走査トンネル分光法(スピン STM/STS)によるナノ磁性体の磁気イメージング」(領域 9, 領域 3)
- ・澤田勉 (物材機構)
「コロイド結晶の流動による単一ドメイン形成とフォトニック結晶特性」(領域 9, 領域 5, 領域 12)
- ・藤川安仁 (東北大金研)
「半導体界面における格子不整合歪みの結晶構造への影響と構造緩和」

2005 年秋

- ・大島義文 (東工大総理工)
「金属ナノチューブ・ナノワイヤの物性」
- ・Bilgram Joerg (Swiss Federal Institute of Technology TEH)
「Complex structures: A Symbiosis of Experiments and Numerical Studies」

2005 年春

- ・森川良忠 (阪大産研)
「有機-金属界面の第一原理量子シミュレーション」
- ・山下良之 (東大物性研)

- 「軟 X 線発光分光法による SiO₂/Si 界面電子状態の直接観測」
- ・三浦浩治 (愛教大物理)
- 「超潤滑系の物理」
- 2004 年秋
- ・渡邊一也 (分子研) (領域 9)
- 「実時間で観る表面吸着種のコヒーレント振動とその制御」
- ・松田巖 (東大院理) (領域 9)
- 「結晶表面上単原子ステップの電気抵抗」
- 2004 年春
- ・水木純一郎 (原研放射光科学研究センター) (領域 9)
- 「永遠の命を持つ自動車排ガス触媒の正体」
- ・奥田雄一 (東工大理工) (領域 9, 領域 6)
- 「超音波を利用したヘリウムの結晶成長—核生成, 島と穴の生成と緩和」
- ・坂上護 (JST) (領域 9, 領域 5)
- 「微視的理論による金属表面二光子光電子スペクトルの解析」
- 2003 年秋
- ・塚田捷 (東大院理) (領域 9)
- 「走査プローブ顕微鏡の理論的展開」
- ・福谷克之 (東大生研) (領域 9)
- 「固体表面での水素分子のオルソーパラ転換」
- 2003 年春
- ・長谷川修司 (東大理) (領域 9)
- 「ミクロな 4 探針プローブ法による表面電子輸送の研究」
- ・小森文夫 (東大物性研) (領域 9, 領域 3)
- 「強磁性ナノドット配列の形成過程と磁性」
- ・Kasumov Alekber Yu (理研, Univ. Paris-Sud) (領域 7, 領域 9, 領域 12)
- 「Superconductivity of carbon nano-tubes and DNAs」
- 2002 年秋
- ・米田忠弘氏 (理研)
- 「STM-IETS による振動励起で誘起された分子の移動と非弾性トンネル分光」
- ・上羽弘氏 (富山大工)
- 「STM-IETS による振動励起で誘起された分子運動の素過程」
- ・中西寛氏 (阪大工)
- 「磁性原子細線の物性 — 構造・磁性・スピン編極電流—」
- 2002 年春
- ・上原洋一 (東北大通研)
- 「STM 発光スペクトルによる表面吸着種の同定」
- ・Prof. Max G. Lagally (Univ. of Wisconsin)
- "Strain Engineering, Self-Assembly, and Nano-architectures in the SiGe System"
- 2001 年秋
- ・Dr. Ch. Gerber (IBM チューリッヒ研)
- "Development of AFM and its application to Nano-sensors"
- ・Dr. O. Pierre-Louis (グルノーブル大学)
- "Step Meandering on Vicinal Surfaces During Growth"
- 2001 年春
- ・泉 邦英 (京大院理)
- 「結晶成長機構と格子欠陥: 放射光を用いた Laue Topograph 法による直接観察」
- ・金山敏彦 (JRCAT・融合研)
- 「水素化 Si クラスターの質量選別成長と Si 単結晶表面への堆積」

「物性領域においてシンポジウム、招待・企画講演を提案する上での注意事項」

物性領域プログラム小委員会

【重複登壇の禁止】

- ・ シンポジウム、招待講演・企画講演を通じて講演登壇は1回とする。提案時においても講演者の重複は認めないことがある。ただし、シンポジウムでの10分以内の「趣旨説明」や「まとめ」等の登壇は、ここでいう講演とはみなさない。
- ・ 一つのシンポジウム内においては、「趣旨説明」や「まとめ」等も重複登壇規制の対象となる。

【自薦提案の禁止】

- ・ シンポジウム、招待講演・企画講演を通じて、提案者と講演者(推薦理由に掲げる論文の共著者を含む)が同一の提案書は審査の対象としないことがある。

【提案者の責務】

- ・ シンポジウム提案者は、10分以内の「趣旨説明」または「まとめ」の登壇者として加わることができる。また、当該企画が滞りなく開催されるよう座長の一人としての任を果たすとともに、概要集原稿や会期後の報告にも責任を持って協力することとする。
- ・ 総合討論やパネル討論等を設ける場合は、提案者は、パネリストとしてではなく、座長もしくは司会者という形でのみ加わることができる。

【シンポジウムにおける所属重複規制(※)】

- ・ シンポジウムを構成する講演(「趣旨説明」や「まとめ」等を除く)は、一つの所属に偏らないことを原則とし、一つのシンポジウムで同じ部門(学科・専攻など)から2名以上の講演者を呼ぶことは、特別な理由がなければ認められない。(上の特別な理由として、異なる研究グループに属し、実験と理論など専門が異なる場合で、且つシンポジウム遂行にとって重要な講演者と判断できる場合を含むこととする。また、シンポジウムの講演者所属欄について、所属を略称表記すると同一になってしまうものは、違いが判るように研究グループ名や研究室名まで記載することとし、怠った場合は所属重複とみなし採択されないことがある。)
- ・ シンポジウムにおいて、「趣旨説明」や「まとめ」等の短い講演とその他の講演(以下、本講演)の登壇者が同一研究室であることは認められない。また、提案者と本講演の登壇者が同一研究室である場合も審査の対象としないことがある。

【シンポジウムにおける占有時間規制】

- ・ シンポジウム講演は、休憩時間を含めて原則3.5時間以内とする。

【その他の規定】

- ・ 共著者が含まれる講演については、シンポジウム、招待講演・企画講演ともにプログラム表記は登壇者1名に限るとする。
- ・ 講演概要集の原稿はシンポジウムの「趣旨説明」や「まとめ」も含めて各登壇者2枚までとする。
- ・ 見込まれる聴講者数、希望日程等の事項を必ず記入すること。
- ・ 登壇者の会員番号(非会員の場合はその旨を記入)と電子メールアドレスを必ず記入すること、未記入の場合は採択されないことがある。
- ・ 前回の学会とあまり内容が変わらない招待講演・企画講演並びにシンポジウムは採択されないことがある。

※ シンポジウムは、特定グループの広報の場ではなく、重要なトピックについて広く議論を進める場であることを注意して欲しい。所属重複規制は、同一グループの広報の場にならないように設けたシンポジウムの実行ルールである。

■日本物理学会若手奨励賞実施要綱

(会誌第63巻第12号掲載)

(2008年5月一部修正)

2007年より本賞を実施するにあたり、その実施要綱を以下に示す。

- (0) **目的**：将来の物理学をにやう優秀な若手研究者の研究を奨励し、日本物理学会をより活性化するために本賞を設ける。
- (1) **人数**：本賞の受賞対象者の上限は、各領域に基本枠1人、さらに、過去3回の年次大会における各領域の講演者数^[1]に比例して定員をわりふる。比例定数は全体として50人以下となるよう調整する（四捨五入による効果は許容する）。具体的には付録1参照。なお、秋季(春季)大会は複数登壇も認めていることから、各領域の実数を見るには不向きであると判断し、受賞者数決定のデータ対象とはしない。
- (2) **賞の名称**：本賞の名称は日本物理学会若手奨励賞とする。
- (3) **対象**：受賞の対象は各領域で決定するが、学会講演、学術論文、学位論文など、本賞の趣旨に合致するものであること。若手の定義も領域の判断によるが、受賞者は物理学会会員にかぎる。各領域の判断により、賞を領域内の各グループで分割し、それぞれが別の基準を設けても良い。賞状は会長名で授与する。
- (4) **義務**：受賞者は受賞後最初の年次大会で受賞記念講演を行うこと（この登壇は一般の講演とは別枠で、領域の講演数にはカウントしない）。受賞者は、この講演の時にかぎり大会参加費を免除する。
- (5) **開始**：全領域が準備できることを待たず、合意のとれた領域ごとに授賞を始める。
- (6) **プロセス**：領域代表は、領域の合意により、募集要項（2年次以降は変更のあった場合のみ）、審査員名簿、必要なら別添資料を学会に提出し、理事会での了承を受けて、授賞候補者の選考を行う。領域は受賞記念講演を行う年次大会開催の6ヶ月前までに候補者を選出し、審査の経緯と結論を理事会に文書で報告しなければならない。理事会では選出された候補者を審議し、受賞者を確定する。
- (7) **時期**：第62回年次大会(2007年秋)より授賞を始める。領域ごとの人数は3年後にみなおす（第65回年次大会の授賞から）。年次大会が秋にある場合もあるので、第65回年次大会の受賞者数は第61回(2006年)、第62回(2007年)、第63回(2008年)の3回の年次大会のデータを用いて決定する。以下、3年ごとに同じサイクルを繰り返す。
- (8) **取消**：受賞者が本会の名誉を傷つける行為を行った場合、理事会は賞を取り消すことができる。
- (9) **例外事項**：すでに同趣旨の賞を実施している領域では、この規定に関わらず、領域特

有の事情で個別の措置が必要なら、理事会での承認を持って適応することができる。ただし、受賞者の上限はこの限りではない。

(10) **受賞回数**：過去に本賞受賞経歴がある者の再受賞は認めない。但し、申請時に複数領域に応募することは妨げない。また、複数領域で候補者となった場合は候補者が一つの領域を選択するものとするが、本規定等により受賞候補辞退者が出た場合でも、それによる繰り上がり受賞はないものとする。

付録1 第58回(2003年)、第59回(2004年)、第60回(2005年)の年次大会の講演者数データからの受賞者決定方式. ここでAは各領域における受賞者の上限.

(Aの算出方法：「3年間の平均占有率(%) * 0.31 + 1」を四者五入)

	2003 (58)	2004 (59)	2005 (60)	A
素粒子論領域	4.91	4.17	4.41	2
素粒子実験領域	3.71	3.82	3.55	2
理論核物理領域	4.11	3.95	5.45	2
実験核物理領域	4.8	5.02	4.5	2
宇宙線・宇宙物理領域	5.81	5.49	5.2	3
ビーム物理領域	2.21	2.43	2.01	2
領域1	6.12	5.51	5.07	3
領域2	4.27	4.98	6.79	3
領域3	7.51	7.01	6.88	3
領域4	6.63	3.97	3.66	2
領域5	6.59	6.56	6.42	3
領域6	3.19	3.41	2.99	2
領域7	4.8	5.27	5.41	3
領域8	11.82	13.3	12.55	5
領域9	5.52	5.64	5.2	3
領域10	4.09	3.82	4.14	2
領域11	8.8	9.01	7.62	4
領域12	3.62	4.82	6.36	3
領域13	1.5	1.83	1.79	2
計	100	100	100	51

[1] 招待講演、シンポジウム、ポスターも含む。但し、パネルディスカッションなど複数登壇者のあるものは除く。合同セッション等複数領域共催の講演は開催主領域だけでなく、共催する全ての領域の講演としてカウントする。